

東京・平河町・大阪 ■一般民事、会社法、不動産、建築、倒産、刑事法など

弁護士法人カイロス総合法律事務所 代表弁護士 田邊勝己氏

司法と経済の最前線をまたぐ
「二刀流」の使い手として

弁護士法人カイロス総合法律事務所は専門性の高い実力派弁護士の集団である。33年目の経歴の中で、新聞報道された著名事件や難事件を多数扱ってきた。整理した会社の負債総額は数千億円に上る。その解決力にも感服モノだが、代表の田邊勝己弁護士は、弁護士としては非常に珍しい第二の顔でも知られる。二刀流を地でいく傑物のもうひとつの肩書きとは。

難問を解決しながら手にした
もうひとつの専門分野

大手証券会社や都市銀行・地方銀行の経営破綻が始まったのは、平成9年秋のこと。バブル経済の崩壊を目の当たりにした日本社会では、金融機関の不良債権や企業の連鎖倒

産など過去にない問題が頻発するようになった。平成元年に法律家としてのキャリアを開始した田邊勝己弁護士は、4年にわたる修行を経て独立したのだが、バブル絶頂期が出発点だけにバイタリティーが桁違い。「若い頃は、都の住宅供給公社や保険会社の代理人を務めたほか、あらゆる民事事件を担当し、一日で法廷

を8件も掛け持ちするような毎日でした。難事件も続発していきまし、企業も強烈な逆風に晒されましたので、民事再生や会社更生など倒産案件も嫌と言うほど経験しました」

今でこそ会社経営者と弁護士は切っても切れない間柄だが、当時は役員になるにも許可が必要だったと田邊勝己氏は、事業を見越していた田邊勝己氏は、事業に乗り出す法律家像を先駆ける形でゴルフ場の経営などに関わり始める。それが高じて、現在は何と東証二部上場のIT企業の代表を兼任中。一般企業の経営者とはともかく、上場企業の社長となると非常に珍しい。

「企業経営者として、日本経済の活性化に貢献したいと考え、夢として法律とITの融合をテーマに、流行のDXの思想やAIの技術を取り入れた裁判予測システムなどを模索しています」

伊達藩士の家系に生まれた武士魂
正義感と突破力で挑む

IT系の上々企業の経営者と言えばスマートなイメージが定番だが、弁護士としてのベルソナ（田邊勝己氏）。多忙な時期には近所の喫茶店に相談者の待機列ができたほどの突破力は、年を追うごとに磨きがかかる。特に、司法実習生時代の恩師である大阪高検元検事長・逢坂貞夫弁護士を顧問に迎えた平成20年前後からは、刑事事件にも比重を置くようになった。現在は、検察官出身の弁護士が3名所属している。

「弁護士は、常に警察と喧嘩している訳ではなく」と警察からの感謝状の前で笑う。「もちろん、必要



弁護士 田邊勝己 (たなべ かつぎ)

中央大学法学部法律学科卒業後、司法試験に合格し、1989年弁護士登録。修習期は第41期。第一東京弁護士会を経て、2020年現在、大阪弁護士会所属。2016年、警視庁で講演。東日本大震災のボランティア活動により釜石市長から感謝状を拝領する。主宰事務所である弁護士法人カイロス総合法律事務所には検察出身の弁護士、警察OBの顧問が複数在籍している。主な公的経歴として、東京簡易裁判所民事調停委員、東京地方裁判所破産管財人、第一東京弁護士会常議員を歴任、また、東証2部上場企業である株式会社アクロディアの筆頭株主兼代表取締役会長、伊香保ゴルフ倶楽部理事長を務める。取扱分野は、民事法、刑事法、企業再建法、M&A法、資金調達、スタートアップ支援。



企業の倒産と本気で向き合うなら、法的手続きだけでは不十分。再建の道を模索するには、帳簿の読み方から知財や労使問題まで熟知しなければならぬ。この後、日本経済は長い低迷期に入るが、企業経営の深部で戦っていた田邊勝己氏は、同時進行する司法制度改革を見て土業の飽和化を予見。「当時の歯科医師の過剰な増加が、この世界にも訪れると考え、2000年代に入つて顕在化しましたね」

弁護士法人カイロス総合法律事務所
http://kairos-keiji.com/

東京事務所 03-3511-8550
住所 東京都千代田区平河町一丁目1番1号
平河町コート5階
アクセス 東京メトロ半蔵門線「半蔵門駅」徒歩2分、
有楽町線「麴町駅」徒歩5分、半蔵門線
「永田町駅」徒歩8分

大阪事務所 06-6130-5818
住所 大阪府大阪市北区西天満六丁目8番7号
DKビル5階
アクセス 大阪市営谷町線「東梅田駅」徒歩9分、
堺筋線「南森町駅」徒歩9分

弁護士法人カイロス総合法律事務所 検索

なら遠慮も妥協もなく対峙します。が、本来は互いに協力しながら被害者・加害者双方の人権を適切に護るのが筋だと思ふのです。そもそも日本の警察・検察は捜査能力が高いですし、近年は人権への配慮姿勢も向上していますからね」

弁護士・経営者の業務の傍ら、警視庁の要請に応じて講演も何度か実施しているというので、まさに有言実行だ。

実直な姿勢も確かに野武士系の趣だが、個人のルーツはほとんど真逆で、何と伊達家・仙台藩の家臣の家系とか。叙勲者でもあった祖父、人格者としても名高い逢坂貞夫弁護士らの薫陶を受けて育っただけに、正義感は一層。弁護士としても事業家として、先人から継ぐ人間観が骨髄となっている。

「最近では、会社の方で大手企業の元社長を顧問にお迎えし、企業経営の何たるかを一からご教授いただいております。我が国にはどの分野でも素晴らしい先輩方がおられるのですから、そのお知恵を継承するのは後進として当然のことです」

今後は、次なる舞台として社会貢献活動にも注力の方針。問題山積の現代日本だが、「止まない雨はありませぬから」と、言葉に力を込めた。